

ジェトロと万博について

独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）
海外展開支援部 戦略企画課
課長代理 桑原 繁

2025年大阪・関西万博の開幕まで、残り540日を切った。（2023年10月26日現在）

一般社団法人 日本電機工業会（JEMA）展博委員会が参加している展示会関連団体連絡会*の定例会合（同8月25日開催）において、国際博覧会（万博）に関する特別報告会が開催されたので、その概要を紹介する。

なお、本稿は、事務局が書き起こした報告内容を基にスピーカーが加筆し、ご寄稿いただいたものである。

*経済産業省、独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）、一般社団法人 日本展示会協会、一般社団法人 日本イベント産業振興協会（JACE）、JEMA 展博委員会の5機関にて構成

1. はじめに

万博は、半年間開催される「登録博」と、約3カ月間開催される「認定博」の二種類がある。独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）は、海外で開催される登録博・認定博のいずれにおいても、経済産業省からの受託事業として多くの博覧会でジャパンパビリオンの設置・運営に関わってきた。

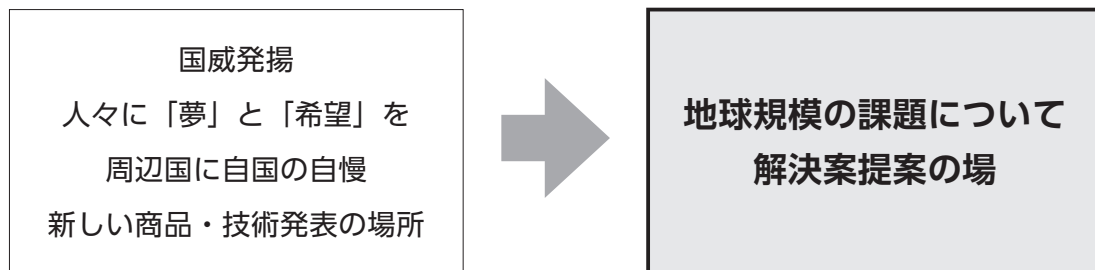
本稿では万博の歴史を振り返りつつ、その意義や役割をご説明する。

2. 万博とは

2. 1 歴史と役割

そもそも万博は「公衆の教育を主たる目的とする催し」として、国際博覧会条約に定められている。また、多くの国や地域が一堂に会するのは、万博の他ではオリンピックと国連総会ぐらいしかなく、しかも長期間にわたる大変貴重な国際交流機会であるといえる^(注)。

(注) 直近の登録博「ドバイ万博」の場合、参加数は日本を含む192カ国・地域であった。



国際博覧会とは、「二以上の国が参加した、**公衆の教育を主たる目的とする催し**であって、文明の必要とするものに応ずるために人類が利用することのできる手段又は人類の活動の一若しくは二以上の部門において達成された進歩若しくはそれらの部門における将来の展望を示すもの」をいう ※「国際博覧会条約」から抜粋

図1 万博とは ～歴史と役割～

また、その役割は回を重ねるごとに少しずつ変化してきた。18世紀半ばに起こった産業革命以降の万博は「国威発揚」の場であって、自国の技術力あるいは国力を世界に披露する舞台であった。

それが現在では、地球規模の共通課題について解決策を提示する場へと変化してきている。例えば近年の万博では、環境保護、サステナビリティ、持続的で成長可能な世界を共にどう作り上げていくかといったテーマが設定されている。

2. 2 過去開催された万博から

(1) ロンドン万博

万博は、1851年にロンドンで始まった。18世紀後半から19世紀前半にかけて英国で起きた産業革命を経て、英国が自国の圧倒的な工業力を世界に誇示した。産業革命の象徴でもある蒸気機関車や、計算機などが第一回万博で展示されたといわれている。

(2) パリ万博

次に、万博の歴史上、最も輝かしい歴史を持っているといわれているのはパリである。1855年から1900年にかけて、万博を5度開催している。日本は1867年の第2回パリ万博から参加した。

当時のパリでは、印象派の画家であるゴッホやモネなどが活躍していたが、万博の影響力はすさまじく、日本の万博参加がいわゆるジャポニズムの契機となり、彼らは浮世絵をはじめとする日本文化に傾倒していくこととなった。

また、1878年の第3回パリ万博では、ニューヨークの自由の女神の頭部が展示され、大きな話題を呼んだ。

続いて、1889年にフランス革命100周年を記念して開催された第4回パリ万博では、最大のシンボルがエッフェル塔であり、エジソンが発明した白熱電灯によって万博史上初の夜間開催を実現するなど、万博の歴史を輝かしく彩った。

(3) ニューヨーク万博

1964年のニューヨーク万博では、ディズニーによって「It's a Small World」が展示された。ニューヨーク万博の跡地は、現在全米オープンを開催する全米屈指のテニスコートになるとともに、ニューヨークメッツの球場

としても利用されている。この他、ルイヴィトンやエルメス、ティファニーも、万博でその名を世界にとどかせたといわれている。

万博は、企業や製品、ブランドなど商業的アイコンックが大々的に打ち出される格好の場と化していたのである。なお近代オリンピックは、万博の併催イベントとして始まり、金銀銅といった褒章制度も万博から始まったとされている。

1893年シカゴ万博では大観覧車が設置された。

1964年NY万博

ディズニーが「It's a Small World」を出展

「ルイヴィトン」「エルメス」「ティファニー」も
万博でブランド確立！

YANKEESロゴは
ティファニー作

近代オリンピック(1900年、1904年)は
万博のアトラクションのひとつ

金銀銅メダル制度も万博の報奨制度から

図2 万博のレガシー

(4) 日本と万博との関わり

当初、日本が万博に参加した趣旨は、諸外国との貿易促進であった。また、日本が文明国であることを西洋諸国に示し、不平等条約を撤廃することもその目的であった。

ちなみに1867年パリ万博では薩摩藩と佐賀藩が、徳川幕府とは別に、初めて出展参加した。これは日本政府の代表を自負していた徳川幕府に代わる新たな政治勢力の勃興を示す形となり、その後の明治維新へとつながっていった。

なお、日本が一国の政府として初めて公式出展したのは、1873年のウィーン万博である。

(5) 日本が初めて自国開催した「大阪万博」

日本が万博に初めて出展してからおよそ100年後の1970年、日本は初めて大阪で万博を自国開催した。「人類の進歩と調和」というテーマの下、太陽の塔がシンボルに据えられ、2010年に上海万博に追い抜かれるまで過去最多の来場者数を誇った。

ドバイ万博の来場者数は、コロナ禍での開催とはいえ約2300万人に上ったが、大阪万博のそれは約6400万人という驚異的な数字であった。

大阪万博では、今では当たり前となった携帯電話やリニアモーターカー、電気自動車などがお披露目された。また、1970 年は外食元年ともいわれ、ケンタッキー・フライド・チキンはこの大阪万博において、日本に初上陸している。

3. ジェトロと万博の関わり

海外で開催される万博で、ジェトロは、経済産業省からの委託を受けて日本政府の機関として日本館を設置・運営する役回りを担ってきた。他方、日本で行う博覧会に対してジェトロは、主催する関係機関への専門人材の派遣に加えて各種広報支援等を行っている。

なお、近年ではハノーバー、愛知、上海、ミラノが大規模な登録博で、サラゴサや麗水（ヨス）、アスタナで小規模な認定博が開催されている（図 3）。2025 年の大阪・関西万博は大規模な登録博である。ジェトロも 2025 年日本国際博覧会協会と連携している。

大阪・関西万博の次には、2027 年の認定博としてセルビアの首都ベオグラードでの開催が決定している。

3. 1 愛知万博（愛・地球博）

関係者によると、愛知万博は万博史上、最もオーガナイズ（組織化）された万博だったといわれている。そして、2025 年の万博に大阪・関西が選出されたことは、愛知での実績が影響した、ともいわれている。

ジェトロはこの時も多くの人材を主催機関に提供し、運営ノウハウの提供や広報協力などを行った。

3. 2 上海万博

上海万博は、過去最大の 7300 万人という来場者数を誇る。開催テーマは、「よりよい都市、よりよい生活」であった。入場者数の目標は 7000 万人だったが見事に達成した。

ジェトロでは、日本館の設置と運営に限らず、テーマに即した企業プレゼンテーションの場を設けるなど、ビジネス創出の可能性も追求した。

○海外の国際博覧会に日本政府機関として、日本館設置

○日本で行う博覧会に人材提供、各種広報支援等（大阪万博、沖縄海洋博、つくば万博、愛知万博、大阪・関西万博）

1958年	ベルギー・ブラッセル（人材提供）
1961年	イタリア・トリノ国際労働博覧会
1962年	米国・21世紀米国大博覧会
1964-65年	米国・ニューヨーク世界博覧会
1967年	カナダ・モントリオール（人材提供）
1968年	米国・ヘミス・フェア国際博覧会
1970年	日本・大阪（人材提供）★
1974年	米国・スポーケン（人材提供）
1975年	日本・沖縄（人材提供）
1982年	米国・ノックスビル（日本政府出展）
1984年	米国・ニューオーリンズ（人材提供）
1985年	日本・筑波（人材提供）
1988年	オーストラリア・ブリスベン（人材提供）
1992年	スペイン・セビリア（日本政府出展）
1993年	韓国・大田（日本政府出展）
1998年	ポルトガル・リスボン（日本政府出展）
2000年	ドイツ・ハノーバー（日本政府出展）
2005年	日本・愛知（人材提供、途上国支援、海外広報支援）★
2008年	スペイン・サラゴサ（日本政府出展）
2010年	中国・上海（日本政府出展）
2012年	韓国・麗水（日本政府出展）
2015年	イタリア・ミラノ（日本政府出展）
2017年	カザフスタン・アスタナ（日本政府出展）
2020年	UAE ドバイ（日本政府出展）

下線：ジェトロが日本館運営

図 3 ジェトロと万博の関わり

3. 3 ミラノ万博

2015年のミラノ万博では、経済産業省と農林水産省が幹事省となり、食をテーマとして日本館が組成された。テーマは、「地球に食料を、生命にエネルギーを」であった。

ミラノでの日本館の評判は高く、日本館は最大5時間待ちの長行列となった。

ご存じの方も多いと思うが、ジェトロは日本食の輸出に重点を置いており、このミラノ博の場においても、日本食という文化のアピールから複数の外食産業によるプロモーションなどが繰り広げられた。

ミラノ万博日本館運営に携わったジェトロ職員によると「ミラノ博を通じて、それまで比較的中國に注目しがちだったイタリア人が、日本のソフトパワーを見直す大きなきっかけとなったのではないかと」言及している。また「ミラノ博以降、『日本いいよね』という反応が明らかに増えたことを感じ、日本館レストランでは多くのイタリア人が、本物の日本の食べ物に接する機会ができて、万博終了後、日本食レストランの数と質が向上した」とのことである。

ちなみに日本政府が掲げる日本の農林水産・食品の輸出目標というのがあり、2020年に発表された「食料・農業・農村基本計画」の中で、政府は輸出額の新たな目標として、2025年2兆円、2030年5兆円を掲げており、ジェトロもこの目標実現に貢献している。

3. 4 ドバイ万博

(1) ドバイ万博とは

直近の2020年ドバイ万博は、中東・アフリカ地域で初めて開催された登録博覧会である。

開催地であるアラブ首長国連邦(UAE)の商業都市ドバイであるが、約半世紀前までは、砂漠の中の小さな漁村であり、海上交易都市に過ぎなかった。中東の周辺諸国がオイルマネーで潤うなかで、ドバイも石油掘削に成功し、都市国家としての発展の端緒となった。

その後、国内外のオイルマネーを物流・都市・観光インフラの開発に大胆に投資するドバイ首長の強いリーダーシップにより、同地は急発展を遂げ、周辺国の人々にとって、「数多くの世界一流」に触れられる憧れの都市となり、今では世界屈指の金融・経済都市の地位を確立している。

昨今、岸田総理の外遊先で伺えたとおり、日本はUAEをはじめとする中東諸国との政治・経済的関係をさらに強化しようとしている。その前段階として、この万博は重要な位置付けであったと思われる。

(2) 日本館における展示

ドバイ日本館の建築設計は、最も旬な若手建築家で、新宿歌舞伎町(東京)の東急歌舞伎町タワーも設計された永山祐子(ながやまゆうこ)様に担当いただいた。



© 2020 JETRO MILANO

図4 2015年ミラノ万博の日本館

ドバイ万博での日本館は、BIE（博覧会国際事務局）が設ける褒章制度において、展示部門で金賞を受賞した。

日本は、ドバイ万博のみならず過去においても展示部門の金賞を受賞している。

日本館の展示は、日本の先進的、前衛的なクリエイターたちの英知を結集した傑作であった。日本の四季や歴史を紹介するだけでなく、ミニチュア写真家・見立て作家である田中達也様のミニチュアアート作品などを紹介している。来館した世界中の子どもたちは、そのミニチュアの世界に引きつけられた、とのことである。

また日本館では、灼熱（しゃくねつ）の暑さの中、何時間も待っていただく来場者に向けて、日本の伝統行事を紹介するイベントを頻繁に開催した。伝統行事や文化に触れてもらうことは、日本に対する理解度が深くなり、多面的な関係強化への礎となる。

(3) 日本館でのトラブルを各国で協力して解決

実はドバイ万博の日本館では、毎日のようにトラブルが生じていた。例えば入場口では、日本ファンの子どもたちが、行列が長すぎて、日本館に入れないと涙する場面があった。また、長い待ち時間のため、体調を崩して搬送される来場者も出たのである。

加えてドバイ万博の会場は砂漠の真ん中に造られているため、インフラが突貫工事であり、開幕翌日から下水道に大きなトラブルが生じた。

なおドバイではめったに雨が降らないが、2022年1月1日に大雨が降り、雨対応が弱いドバイでは、多くの

パビリオンが雨漏りにより一時閉鎖になった。日本館は辛うじて閉鎖はしなかったものの、待ち列動線変更等の対応が必要になった。

なんといっても最大の試練は、コロナ禍での運営であった。日本館を運営するアテンダントやスタッフの感染防止対策や、感染者発生時の拡大防止対応では苦労の連続であった。

こうしたトラブルや不具合に対する、ドバイ博日本館運営に携わったジェトロ職員による印象的なコメントを以下に紹介する。

「万博においては、たとえドバイという世界屈指の経済・金融都市であっても、不具合が一切ない準備作業は極めて難しい。主催者である公社・各国とも限られた期間で急いで準備しているのが実態であった。その中で、参加国間や主催者の公社と、協力・情報交換しながらトラブルを解決し、開幕後もみんなで運営したことを実感した。万博はみんなで（主催者の公社と参加国の間で）協力しながらやっていくものではないかと改めて思った」

4. 日本館としてふさわしい建築の設計施工などを担うジェトロ

大規模な登録博では、主要各国が自国のパビリオンを建築する。一方で小規模な認定博では、主催者が用意した既存のホールに入居する方式を採っている。

日本館としてふさわしい建築の設計施工を委託し、検収・検査するのもジェトロの仕事である。そして会期中



設計：永山 祐子 ©2020 年ドバイ国際博覧会日本館



©2020 年ドバイ国際博覧会日本館

図5 ドバイ万博 日本館 金賞受賞！

の配管詰まりや雨漏りなどメンテナンスもジェットロが行っている。

多くの関係者を巻き込みながら、皆が一つの目標に向かって突き進む。ジェットロの業務の中でも、これほど圧倒的な達成感をもたらす仕事はあまりないといえよう。

5. 「日本は博覧会大国である」との非常に高い評価

BIE から「日本は博覧会大国である」との非常に高い評価を得ている。

「ジェットロは、国際博覧会の仕事のプロであり、知見が蓄えられている。その知見を後世、次世代に残すべき」「ジェットロは、BIE への提案や万博会場における日本館からの新しい万博像の提案を通じて、将来の国際博覧会をさらに良いものにすることができる」といったコメントを得ている、とのことである。

1867 年の第二回パリ万博で、初めて日本が万博に参加した際に使節団が胸に抱いた思いと同じく、ジェットロは貿易振興機関として、万博を通じて世界中の人々に日本を好きになっていただき、ひいては世界各国・地域との貿易投資促進や関連産業の相互連携発展につなげていきたいと考えている。

6. おわりに

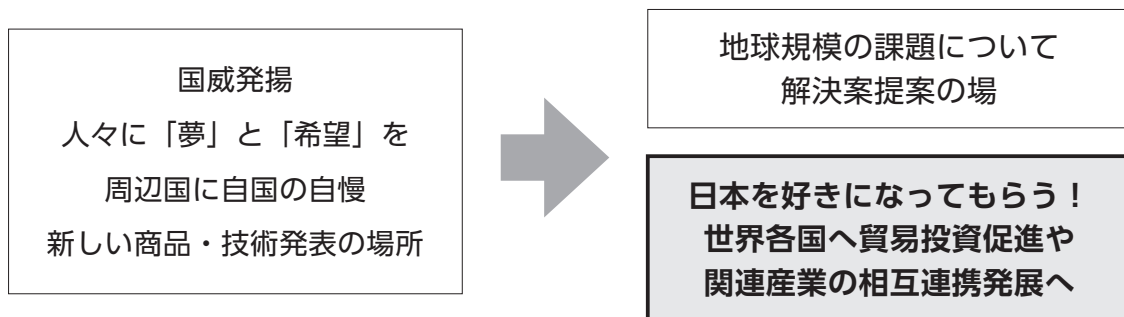
大阪・関西万博は、2025年4月13日から10月13日にかけて開催される。そこでまた、一つの歴史が作られる。

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、サブテーマは、「Saving Lives：いのちを救う」「Empowering Lives：いのちに力を与える」「Connecting Lives：いのちをつなぐ」。「いのち」という言葉が目立つ。

人類は、大きな課題として何千年、何万年の長いスパンで見ると、既に克服したと思われた「疫病」と、「(国土併合や侵略を目的とした) 戦争」に近年、相次いで直面することになった。一方で、地球温暖化対策といった緊急を要する地球的課題に一体となって取り組むためには、このような古くて新しい人類の課題の解決が何よりも望まれよう。

数多くの国・地域が一堂に会する大阪・関西万博が、上記のような課題の解決に向かう場になることも期待される。

先述したとおり、ジェットロは大阪本部が中心となり、博覧会協会と連携・協力して大阪・関西万博の成功に貢献したいと考えている。今回の万博ではコロナ後のインバウンド需要の再興も含め、さまざまな経済・社会・文化的効果が期待されている。そうした中、ジェットロは、テーマに即した日本の新たな技術や魅力の発信、ビジネス交流機会の提供などに引き続き取り組んでいきたい。



○ジェットロの万博での立ち位置や役割はなにか

○ジェットロは、万博専門家でありコーディネーター

○日本への理解、日本へのファンを増やすために行い、貿易促進・投資促進のために日本館を利用していく。

図6 万博とジェットロ